

平成20年度第3回太田地域協議会会議録

◆日時：平成20年10月8日（水）午後1時30分～

◆会場：太田文化プラザ「多目的ホール」

◆案件

- (1) 市長への提言について
 - (2) 太田地域振興計画について
-

◆出席した委員の氏名

出席委員 8人

伊藤昭子、大信田康雄、加藤 進、倉田良子、小松 誠、田口誠毅、
野中シゲ子、福原榮司

欠席委員 8人

大信田弘喜、草彥太郎、小松一男、鈴木弘之、鷹薮信行、泉 澄彦、
藤澤由希子、藤原鈴司

◆職員（太田総合支所）

大信田 哲 男（太田総合支所長）
高 貝 忠 造（市民課長）
鈴 木 成 人（農林振興課長）
佐々木ジョージ（建設課長）
熊 谷 和 則（教育委員会太田分室長）
高 橋 共 男（地域振興課長）
藤 澤 光 朗（地域振興課参事）
高 貝 清 一（地域振興課参事）
加 藤 カ ヨ（地域振興課副主幹）
熊 谷 憲 一（地域振興課主事）

（午後1時30分開会）

○高橋共男地域振興課長（以下「地域振興課長」と表記）

ただ今から、平成20年度、第3回太田地域協議会を開催いたします。本日の協議会には、委員の2分の1以上が出席しておりますので、大仙市地域自治区の設置等に関する条例第9条第3項の規定によりまして成立したことを報告いたします。

それでは会長からご挨拶をお願いします。

○加藤進会長（以下「会長」と表記）

10月に入り、だいぶ秋も深まってまいりました。お忙しい中、委員のみなさまにはご出席くださりましてありがとうございます。

今年は豊作が予想されているようで、喜ばしいことではありますが、豊作を素直に喜べる農政にしてほしいと期待しているところであります。

今回の協議案件は、前回お示しのとおり、市長への提言のとりまとめと、太田地域振興計画についての2点であります。よろしくお願いします。

○地域振興課長

ありがとうございました。それでは大信田太田総合支所長が委員の皆様にごあいさつ申し上げます。

○大信田太田総合支所長（以下「支所長」と表記）

今日、上堰の田口フヂノさんという方が100歳の誕生日を迎えられ、山王丸副市長と一緒にお祝いに顔を出してまいりました。非常に元気でうらやましいと言いますか、あやかりたいと思いつつお祝いを申し上げてまいりました。

さて、5日に東京の市ヶ谷でふるさと太田会が開かれました。久米副市長と山王丸副市長、農林商工部長や私、地域振興課長などが出席してまいりました。およそ110人が参加してふるさとの話などをしてまいりました。当日はふるさと納税についての説明をしてまいりましたが、説明が終わったとたん申し込みしていただく方もおありまして、大変ありがたく思いました。大仙市のふるさと納税につきましては、9月末現在で25件、総額335万円の申し込みがあるとの報告がありました。県内3番目の申し込み数となっています。

12日には、太田のロードレース大会が開催されます。おかげさまで518人の申し込みがありました。今年はオリンピックメダリストの有森裕子さんが来てくれることになっております。当日は9時から1時間程度、ふれあい交流館で講演会を行う予定です。どうかお出でいただきたいと思っております。

18日、19日は太田を元気にする秋まつりが開催されます。JAの方々からのご協力をいただきまして農産物品評会を復活させることになりました。また、保育園児から太田分校の生徒、一般の方などから芸能発表もしていただく予定です。皆さんお忙しいこととは思いますが、こちらにも足をお運びいただければと思います。

簡単ではございますが、私のあいさつとさせていただきます。本日もよろしくお願いいたします。

○地域振興課長

それでは、協議事項に入ります。進行は、会長にお願いいたします。

○会長

協議に入ります前に、会議録署名委員を私から指名させていただきます。伊藤委員

と倉田委員よろしく申し上げます。

本日の案件第1点目の市長への提言についてであります。3名の委員から提案を受けておりますので、提案者から説明をお願いします。最初に大信田委員をお願いします。

○大信田康雄委員（以下「大信田委員」と表記）

提案の理由として、真木ダム建設については、長期間にわたり合併以降も検討された結果、結論的に建設を取りやめるとの方針が出されました。

これにより、市の水道事業や農作業の水利問題等、解消に向けたものはないものか、といった観点から、ダムの代替案というよりも、この地域の今後の生活のうえで必要なものと真木溪谷や登山等勇壮な大自然と総合的に考慮し、現在の水道事業を考えていくべきとのことで提案させていただくものであり、市の上水道事業のひとつの題材として提案するとともに、地域の活性化に向けて提案というのが主旨であります。

みなさんご存知のように関根頭首工は真木溪谷（斉内川）にある農業用の頭首工であります。この頭首工は、ある程度の高さもあり、農業用のみならず、真木溪谷の川魚の保護対策の役割も果たしていると思っています。

この頭首工を活用し、少しかさ上げするとともに、川底に堆積した土砂を取り除くことで設置した当時の高さを復元し、上流の真木橋付近まで貯水できるようにすることで、かなりの水量を貯水することができると考えます。このことにより、春の雪解けと梅雨時期の雨水は現在一気に下流まで流れてしまっているわけだが、それを貯水することによって上水道や農業用水に活用することができるのではないかと、というのが私の提案の主旨であり、ダムの代替案というよりも、この事業によって地域が潤い、活性化の目玉として提案するものであります。

このようなことから、みなさんからご検討願いたいものであります。

○会長

大信田委員から提言の説明をいただきましたので、委員の皆さんから何かご意見やご質問はありませんか。

私の記憶では、関根頭首工は、そもそも砂防えん堤として設置されたものであり、土砂をためるのが目的であります。

大信田委員の提言は現在の頭首工を改修し、かさ上げすることのようですが、既存の部分強度が保たれるのか、不安な面もあります。

みなさんから何かありませんか。

○大信田委員

真木橋まで砂防えん堤はいくつありますか。（事務局から3つの砂防えん堤があるとの説明があり）

たしかに会長がおっしゃるとおり、砂防えん堤の役割としては土砂を堆積させることが目的であるとのことでしたが、全部埋まってしまえば、やはり機能を果たせないのではないのでしょうか。この関根頭首工の上流に3つの砂防えん堤が存在するのであれば、なおなお提言のような活用をすべきであると思います。現在、道路脇の雑木が生育し、真木林道から溪谷の溪流を眺めることができない状態でもあることか

ら、貯水して水位を上げることにより、渓谷の景観も高めることにもつながり、観光面の振興にもつながると考えられます。

○倉田良子委員（以下「倉田委員」と表記）

現在は、私たちが利用している地下水は、潤沢であり、不自由さは感じていないが、世界的に見れば、水の確保が重要課題です。また、安全な水を確保することも大切であります。私たちに与えられている、この真木からの潤沢で安全な水を活用していくために大切なことだなあと感じられます。

また、観光面からも木々がうっそうとしてきていて、景観が良くないことも総合的に考えて真木渓谷の整備といった面からも飲料水・農業用水の確保を図ることと合わせて、地球規模の視野で提案しても良いのではないかと思うが、行政側でこのような提案は現実味がなく、却下すべきものなのか、意見をお聞きしたいです。

○地域振興課長

提案の内容によると観光面と飲料水等の確保の両面によるものであるようです。頭首工のかさ上げについて、建設課長から意見を述べていただきます。

○佐々木ジョージ建設課長（以下「建設課長」と表記）

既存の頭首工の構造は、非常に簡単なもので、ブロックを並べた程度のものであり、また、耐震構造といった計算をされて構築されたものではないことから既存の頭首工をかさ上げすることは不可能である、というのが県の見解であります。

実際に施工する場合には、耐震構造等の計算を含め、まったく新しいものを設置しなければならないということ、基礎も岩盤まで届くように設置しなければならないこととありました。既存の頭首工は、中仙側は川の堤防に接続している形態であり、太田側は山がせり出しており、岩盤に達することは容易と思われませんが、現在の場所に施工するものであれば中仙側はかなり難しいのではないかと考えられます。実際に砂防えん堤等を設置する場合は、両側が山部であり、基礎が岩盤に設置できる箇所です。

また、官地部分は現在の川の部分だけであり、市道と川までの間にある林等は民地です。このことから、施工にあたっては用地買収・補償等が必要になってきます。

○地域振興課長

付け加えて、観光面のことでありますが、真木渓谷は他に誇れるものとして認識しているものでありますが、現在の市道を落石等がなく、安全に通行できるように整備していくことが大切だと考えております。また、大信田委員がおっしゃるとおり、雑木等により渓谷がみえづらくなっているのも事実でありまして、国有林を管轄している森林管理署に要望等をしているものでありますが、なかなか思うように進んでいないというのが現状であります。

○会長

行政側から意見をいただいたものでありますが、どのようにしたら良いでしょうか。

○大信田委員

建設課長にお聞きしたいのですが、現在の関根頭首工は、土砂の堆積により少しも貯水できる状態でないように感じられます。2～3mの深度といったある程度の水を留める程度でもやはり基礎は岩盤に達しなければならないのでしょうか。

また、先ほど民地があるとのことでありましたが、川の中州が民地なのでしょうか。

○建設課長

どの程度かさ上げするのか規模が分かりかねるのですが、頭首工そのものよりも堤防がもたないのでは、というのが県の見解でありました。

また、民地は川岸の部分であり、中洲はあくまで川の中であり、官地であります。

○大信田委員

技術的には分かりました。大仙市の上水道の計画では、真木ダムの代替案に30億円の経費がかかるとのことであり、たとえば、そのうちの10億円をこちらに回していただき、頭首工にそれなりの手当てをし、その伏流水を活用するといったものが、私の考えであります。

どこまでも食い下がるようなものではありませんが。

○小松 誠委員（以下「小松（誠）委員」と表記）

真木ダムを県知事がやらないと決定し、代替案について検討されてきたものであります。説明会等に私も出席したりしました。金井伝に70m³程度の貯水池を作るといった案もあるようです。

市でもアンケート調査を行い、飲料水にかかる調査も行っているようですが、ダムの代替案といった観点ではなく、少しでも安心して飲める水をいくらかでも確保でき、また、観光面でも期待できるこの関根頭首工にかかる提案は関心をもって検討し、提案していても良いのではないかと感じられます。

○会長

今月の28日に市長が出席する予定です。この提案については、その場で市長と懇談という形で、市長に対して要望することでどうでしょうか。この要望を地域協議会で要望するのか、提案者個人で要望するのか決めていただきたい。市長と同席する機会があるのだから市長に直接お話したほうが良いのではないかとと思われるのだが、いかがでしょうか。

（各委員から発言あり）

○会長

それでは、この提言は、地域協議会全体の提案といった形とせず、大信田委員の提

言として、市長と懇談するということとしますので、よろしくお願いします。
次に小松委員からの提言についてであります。小松委員お願いします。

○小松（誠）委員

地域協議会の委員というよりも、普段感じていることを並べてみました。協働のまちづくりということで、市民と行政とが力を合わせてまちづくりを進めていくということと思われるが、これまでも地域の自主的な団体が行政からサポートを受けて活動してきたことですので、改めて言うほどのことではないのではないのでしょうか。これまでは、私個人も含めていろいろとお世話になってきましたが、改めて協働のまちづくりといわれても、どこまでわれわれ市民がやればいいのか分かりません。

市長が以前、やはり8地域それぞれに特色を出し合っただけのまちづくりを推進、各地域を大事にしながらかつ大仙市の発展を図りたいと言っておりましたが、合併後、自治会の集会施設の修繕に対して市の経費をいただけるようになりまして、たいへん助かってはいるのですが、これまで自治会で対応してきたことでありますので、経費削減の面からもその方向にあわせたほうが良いのではないかと感じられます。

財政が厳しいといった苦しい、暗い話しか出てこないが、企業誘致等に励み、歳入をあげる取り組みを強化して、お金が出て行くところだけに縛りをかけるのではなく、お金が入ってくるようなことをもっと考えてほしいと思います。

学校統合については、保護者の中には違う考えがあるとは思いますが、かつては、子供の数が少なくて野球やバスケットのチームができないからかわいそうだ、といった声も聞かれましたが、それは統廃合の理由にはならないでしょう。人数が少なれば子供たちが切磋琢磨する機会がない、といった考えではなく、少人数の子供たちをいかに育てていくか、大仙市としての教育理論・システムを構築してほしいです。

なかなか事業として取り上げられないものであり、考えを聞いてみたいといったことから提案させていただきました。

○会長

委員のみなさんから何かございますか。

○田口誠毅（以下「田口委員」と表記）

私も学校の統廃合について、児童が少なくなったから、競争心が養われないといったところから、学校の統廃合が検討されると懸念されるが、競争心がある子供が良いのか、それとも連帯精神がある子供が良いのか、ということも考えました。また、子供一人ひとりが個性を持って、大きくなれば個性がなくなり、落ちこぼれる、競争に負けるといったことが考えられます。大人になっても競争に打ち勝っていくことは一部の人でかまわないと思うし、他人を思いやる人間になれさえすれば良いのではないかと考えます。

大仙市らしい教育を長く続けていけるよう、今後長時間かけてもかまわないので確立して行ってほしいです。けして早期に結論を出さないでほしいと思います。

○会長

ほかに何かありませんか。

○小松（誠）委員

田園都市構想などお話は理解できるが、財政が厳しい、厳しいというが、税収を上げるなど収入を増やす施策の方向性が見えてきません。そのような考え方をお聞きしたいというのが、私の提言の主旨であります。

○会長

市長との意見交換の機会に直接市長から伺うことでどうでしょうか。小松委員からのものも文章として提出はせず、市長と懇談という形でお話を伺うことにします。次に福原委員、よろしくお願いします。

○福原榮司委員（以下「福原委員」と表記）

現在不通となっている横沢バチ沢線の通行へ向けた今後の見通しについて、支所長からおおむねお聞きしているが、地域の方々切望していることですので、せっかくの市長と懇談する機会にお聞きしたいと思い、提案してみました。

○会長

委員の皆様も早期開通は全員が望んでいるものと思われまますので、異存はないものと思います。行政側から意見をお願いします。

○支所長

今年の春に行われた「スプリングレビュー」という地域の課題解消に向けた市長との懇談の場で担当課長とともに市長と意見交換してきました。

その際、この横沢バチ沢線と真木線の両市道の通行の安全を確保するための構想設計を作成するため、設計業者に調査を委託しておりましたので、その結果について報告してまいりました。

このうち、真木線については、6月補正計上し、いままさに工事着手しようとしているところでございます。しかし、横沢バチ沢線については、施工費が多額であり、財政的に厳しいのが現実であります。市長との懇談の席上、太田地域の子供たちの総合的学習の機会の提供としてオブ山の杉に触れる機会を、というふうに協議してきました。このときに太田地域で現在行われているむらづくり交付金事業が完了する2～3年後までに検討したいとの回答を得ました。いずれにしても市の単独事業として施工するのはかなり厳しいことであり、時間をいただきたいとのことであります。

また、バリケードを設置し、全面通行止めとした経緯は、市道に付随した岩盤斜面が非常にもろくなり、落石の危険性が高いため、講じた措置であり、市民のみなさんの安全性を考慮した結果でありますので、ご理解をいただきたいと存じます。

市長からの現在の事業完了後に検討したいということが現在の見通しであると考えているところでございますので、よろしくご理解をお願いいたします。

○会長

支所長から、事業の見通しは2～3年後とのことでありましたが、市長に伺っても同回答であると思われますが、いかがですか。

(建設課長から現在の維持管理状況等について説明)

○会長

災害復旧事業の対象にならないですか。

○高貝清一地域振興課参事 (以下「地域振興課参事」と表記)

以前、同路線での他の崩壊箇所の復旧について、旧太田町時代に国及び県へ陳情をしました。原形復旧が大原則ですが、ご存知のとおり大崩落しており、崩れた岩石が元通りに戻せないだろうという理論で適用外との回答をされました。

○会長

福原委員いかがでしょうか。

○福原委員

いま支所長から2～3年後ということの見通しのお話を聞くことができましたので、とくに市長からお聞きしなくてもかまわないです。このことから、市長との懇談の材料とする必要はありません。

○会長

それでは、2件については、市長さんとの懇談材料とします。市長さんに時間があるようであればその他にもお話したいと思いますので、何かありましたら事前にお知らせいただきたいと思います。

次に太田地域振興計画について、事務局から説明をお願いします。

(資料に基づき、事務局が説明。これまでのワークショップでの意見をまとめた太田地域振興計画作成進捗状況及び中間報告を行い、次回第4回協議会(10月28日)までに同計画素案を示すとした。各委員これを了承。)

○会長

それでは、本日の協議会はこれで終了します。お疲れさまでした。

会議録署名委員
